

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年11月12日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 15名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3871300152
事業所名	グループホーム テレサ
(ユニット名)	テレサ1階
記入者(管理者)	
氏名	津島 夕香
自己評価作成日	令和元年 10 月 20 日

<p>【事業所理念】 笑</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ホームだよりは職員に作成してもらい、何度か家族の方に配布することができました。だが、最近は業務が忙しく、なかなかホームだよりを作成する時間を設けることができず、作れていません。避難訓練は行っているが、まだ、滑り台を使用する訓練はできておらず、備蓄に関しては水の確保もしてみたが、保管場所がなく、多くの水を確保するのは難しかったです。外出に関して、毎日の業務に追われ、ゆつくり外出する時間が取れず、近くに散歩に行く事も難しい現状でした。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設して16年目を迎える事業所は母体となる医療機関に隣接しているため、24時間の医療体制が整っており看取りにも取り組んでいる。管理者は自身の体験から、自分がして欲しいことを利用者にしていきたいと考えており、利用者主体を原則に取り組んでいる。事業所内にはゆったりとした空気が流れ、利用者も職員も穏やかな笑顔で過ごしている。管理者の考えに賛同する職員との信頼関係が築かれ、自分たちが入りたいと思える事業所を目指している。</p>
----------------------	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>◎ ケアプラン作成時にアセスメントして本人の希望に添えるようにしています。</p> <p>◎ 生活の中で利用者の方にとって何がいいのか考え、表情などから読み取るよう努めています。</p> <p>○ 家族の方と面会時に近況報告等話しています。</p> <p>◎ たくさん利用者の方と会話するようにしており、介護記録等に記録するようにしています。</p> <p>○ 決めつけてしまわないように話をして思いを知るようにしているが、できない方もいます。</p>	○	◎				日々の生活の中で利用者寄り添い、会話の中から利用者の思いや意向を聞き取っている。重度の利用者で、本人から話を聞けない場合は家族から聞き取ったり、表情から推測したりして把握し、利用者の希望に沿った暮らしができるよう努めている。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎ 入所時に家族の方に詳しく話を聞いたり、入所前のケアマネジャーより情報を頂いています。</p> <p>◎ ADLやIADLの状態を知り、利用者の方の現存機能の把握に努めています。</p> <p>◎ いつも安心できるような声かけをするように心がけています。</p> <p>◎ 行動や表情を見守ることで、気持ちや感情の変化を知ることができます。どのような場面で不安になるのか考え、把握に努めています。</p> <p>◎ 24時間の生活の流れを知るようにしています。日誌や介護記録に目を通し、把握できるように努めています。</p>	◎	◎				入居に際して利用者や家族から生活歴を聞き取る他、これまで関わってきた介護支援専門員や関係機関からも情報を得て把握するようにしている。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>△ 1人1人に合った支援ができるよう検討しているが、意思疎通が難しい人はできていません。</p> <p>◎ 体が思うように動かなくなっても快適な生活が送れるように検討しています。</p> <p>◎ ケアプランの課題にしています。</p>	△	◎			△	計画作成担当者を中心にアセスメントを行っている。独自のアセスメントシートには、利用者や家族、関係者から収集した心身の状況が詳しく記載されているが、利用者本位のケアの検討ができていない時もあるため、今後は重度の利用者を含め、何を求めているか利用者目線で検討して欲しい。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	介護度が上がり、安全面を重視していることが増えています。	/	/	/	常にその人らしくを基本とし、事業所理念である「笑」のある生活を送るための課題やケアのあり方について、家族その他関係者の意見を踏まえて職員間で話し合って介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	全てを取り入れることは難しいが、家族や本人、職員で話し合うようにしています。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	安全面や体の清潔保持を重視してしまっています。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の方とは連絡を取り、本人の状態について報告し、協力してもらっています。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアプランはいつでも見られるようにしており、共有できるようにしています。	/	/	◎	介護計画の内容はカンファレンスで共有されており、個別ファイルに介護記録と一緒に綴じてあり、職員は介護計画を確認しながら記録できるようになっている。計画に沿ったケアの実践は概ねできているが、評価記録の書式は検討の余地があると考えられる。利用者一人ひとりの暮らしの様子や職員の気づきは個別に細かく記録しているが、アイデアの記録まではできていないため、今後は職員全員で徹底して取り組むことを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	介護記録に記入したり、問題があれば職員と話し合いを行っています。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	いつもと違ったこと、会話など介護記録に記入しています。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	申し送りノートに気づき、工夫、アイデア等記入しています。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	見直しを行っています。	/	/	◎	介護計画の見直しは6か月に1回実施しており、モニタリング表には目標の達成度や利用者や家族の満足度が記載され、今後の計画に活かされている。新たな要望や変化がない場合も毎月状態確認は行っており、状態に変化が生じた場合にはその都度話し合って計画を見直しているが、記録に残されていないため、今後は確認や見直し時には記録に残すことが望まれる。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	現状確認を行い、サービス内容がきちんと実施できているか確認しています。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	利用者の方の状態に合わせて計画を考えています。	/	/	△	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	会議は行えていないが、緊急などの時はその都度職員で話し合いを行っています。	/	/	△	職員体制が整わず、定期会議も開催できない時期が続いたが、今月から定期会議を再開したところである。今後は職員が一丸となって業務改善にも取り組んでいく予定とのことと今後の活動に期待したい。会議の内容は申し送りノートに記入し職員全員が確認して押印している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	会議はできていないが、職員との話し合いのときは、職員同士うまくコミュニケーションできており、気づき、意見などでできています。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	今は会議はできていないが、必ず全員の意見を聞くようにしています。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートに記入して伝えられるようにしています。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートに記入したり、申し送りを共有できています。	/	/	◎	業務連絡や利用者の情報などは申し送りノートに記入して共有できる仕組みを作っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートに記入して伝えられるようにしています。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	全員については把握できていないが、できることは希望を叶えられるよう努めています。	/	/	/	生活の様々な場面で自己決定して答えられるように配慮している。利用者の笑顔を引き出すように職員も笑顔で話しかけており、利用者一人ひとりの好みの話題を提供して、話が弾むようにしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	声かけのときに自己決定できるような声かけをしています。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	重度の方にも必ず声かけを行い、自分ができることはしてもらっています。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	×	重度の方が多くなっており、職員側の都合を優先してしまっています。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	声かけを行う時は笑顔で接したり、話をしています。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	表情など見て、その人に合った支援ができるように努めています。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	利用者の方のプライドを傷つけないよう、声かけや介助を行っています。	/	○	○	職員は利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度について常に意識しており、優しい声かけで対応している。衣服が汚れている場合は、周りに配慮してさりげなく声をかけるよう心がけている。居室への出入り際には、必ずノックをして声をかけてから入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	トイレ介助時や失禁している時など他の人に見えないように、聞こえないように努めています。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレや入浴は、必ず戸を開けて介助を行っています。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室の時はノックをして入るようにしています。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	仕事上知りえた情報は施設外への口外しないようにしています。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	料理や昔のことなど教えて頂き、感謝しながら良い関係を築けるようにしています。	/	/	/	職員は利用者同士の関係を把握しており、仲の良い利用者同士が協力して洗濯物を畳むことができるよう声をかけていた。その場の状況や空気を観察して、トラブルになりそうな場合は席を変えたり、職員がさりげなく間に入って支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	仲良く話したり、洗濯物たたみなど、利用者の方がお互い協力しながら生活しています。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	席の配置等、トラブルになりやすい人同士は隣にしない、またさりげなく引き離したり配慮しています。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルになる人同士把握できているので、トラブルが起きる前に対策しています。トラブルが起きた時は、すぐ止めに入り、落ち着けるよう声かけを行っています。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入所時に家族の方に聞いたり、来客の方との関係性を聞き、把握できるようにしています。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	利用者の方や家族の方に話を聞くことにより、環境やその人の周りの関わりを把握しています。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	重度の方が多くなり、外出することが難しくなっています。面会時はゆっくり過ごしてもらえよう支援しています。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会に来られた時は、部屋でゆっくり会話ができるよう部屋に案内しています。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	暑い季節の時はできていません。季節に応じて散歩など行っています。	△	×	△	職員のシフトの問題などで、今まで外出支援の余裕はなかったが、最近何度か散歩に出ることができるようになってきた状況である。今後は重度の利用者を含め、ベランダや庭に出る等、戸外の新鮮な空気を吸い気分転換を図ることができるよう取り組んで欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	できていません。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	できていません。			×	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	買い物に行きたい人は、家族の方が来られた時に行ったりしているが、全員できているわけではないです。地域の協力も得られていません。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	利用者の方が何を思い考えて行動しているのか、どうして欲しいのか考えて支援しています。また、不穏が見られる時は安心できるように声かけも行っていきます。				日々の生活の中で活動量を増やしていくことが機能の維持につながると考えており、リビングまでの廊下の移動や靴を履いたり更衣したりする日常生活動作についても、できるだけ見守りながら待って利用者自身でできるように支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	向上は難しいが、1日2回ラジオ体操や食事前の口腔体操を行っています。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	自分でできることは見守りをしています。無理だと思った時はさりげなく一緒に行っています。	○		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	出来る事、得意なことはしてもらっています。				口腔体操で歌を歌ったり、好きなことをして楽しんでもらうようにしている。新聞を折ったり、洗濯物を畳む等、できることをしてもらい感謝の言葉を伝えて役割や出番が励みになるよう努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	全員に出来ているとは言えないが、できる方には新聞折や洗濯物たたみなどしてもらっています。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域との交流はありません。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	整容や服装には気をつけています。				利用者は季節に合った清潔な装いをしている。髪は2か月に1回、訪問美容師にカットしてもらっている。食事の際の食べこぼしなどは、さりげなくカバーしていた。重度の利用者も整容には十分留意しており、毎日起床時には手や顔を拭き、髪の毛を櫛でといて着替えもしているが、脱ぎ着がしやすい衣服が多いため、今後は利用者の気に入った服装をコーディネートするよう配慮して欲しい。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	△	重度の方は職員が決めてしまっているところがあるが、自分で管理できる方にはお任せしています。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	必ず声かけは行っているが、出来ない方については職員が決めてしまっています。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	全員にできているとは言えません。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	汚れ乱れがあれば本人にしか聞かないように声かけし対応しています。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	訪問で来てもらっている美容師の方に散髪してもらっています。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	清潔感などは考えて対応しているが、重度の方は脱ぎ着しやすい服装になってしまっています。			△	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食べる事の楽しみを持ち、美味しく食べれるように工夫しています。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	自立した利用者の方には野菜の皮むきをしてもらっています。			△			
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	できていません。						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入所時に家族の方や本人から聞いていて、把握できています。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	季節の食材は取り入れるようにしています。彩りよく美味しく盛り付けするように気をつけています。			△			
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	◎	1人1人に合った食事形態にしており、健康状態に合わせて量なども調節しています。						
g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入所時に今まで家で使用していた物を持って来てもらっています。			◎			
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員と一緒に食事をするようにしています。見守りを行いながら必要に応じて声かけや介助を行っています。			◎			
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	料理の匂いを感じてもらったり、介助が必要な方にはメニューを伝えながら介助行っています。	◎		◎			
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	1人1人の食事量や水分量を記録管理しています。カロリーは計算はできていません。						
k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分量、食事量を全て記録しています。摂取量が少ない方には、おやつ時に好きな飲み物に変えたり、声かけてなるべく摂取できるようにしています。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	話し合いは行っていないが、献立と材料は記録に残して、重複がないようにしています。			△			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理器具、食器は清潔に保つ(水分は拭き取る。除菌を行うなど)食材も新鮮なうちに提供できるようにしています。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解しており、毎食後行っています。				毎食後口腔ケアを行っており、入れ歯は毎晩洗浄している。できるだけ自分で行えることはしてもらい、できない部分を介助しながら口の中を確認している。虫歯など異常が見られた場合は、敷地内にある歯科外来を受診している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	自立された方については把握できていないが、介助を行っている方については把握できています。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	できていません。何かあったら敷地内の歯科を受診しています。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎晩ポリドントにつけています。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	出来る事は自分でしてもらい、難しい部分は介助行っています。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	敷地内に歯科があるので受診しています。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	理解はできているが、ほとんどの利用者の方が使用しています。				基本的には日中はなるべくトイレで排泄できるようにしており、夜間のみおむつを使用して時間で交換している利用者もいる。利用者それぞれの排泄パターンや状況、排泄量などを考慮しておむつやパッドが適切に使用できるように支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	理解しています。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	自立した方については把握できていないが、トイレの後、本人に聞いたりしています。重度の方については排泄チェック表を活用することによって排泄パターンが把握できています。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	本人の体調や状態によって見直しを行っています。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	運動不足、水分不足、薬の調節など職員間で話し合い取り組んでいます。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表を活用しトイレ誘導が行えています。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	自立している方については話し合っています。重度の方は、日中、夜間で使用するものを変えたりして、その方に合ったのを選んでいきます。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	1人1人の状態に合わせてパット、紙パンツを使い分けています。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	体操をしたり、水分量に気をつけたり、野菜を多く取り入れたりしているが、便秘薬に頼っているところがあります。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	時間帯など職員の都合で決めてしまっています。だが、利用者の方に合わせて入浴時間や温度は対応しています。	◎		○	午前中に入浴してもらっているが、時間帯や湯温等、利用者の要望にも柔軟に対応している。入浴を嫌がる利用者にも声のかけ方に工夫する等、ゆっくりくつろいで入浴できるよう努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	1人1人個別で入浴しており、入浴剤も使用しています。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自分で出来る事はしてもらい、出来ないことは介助し安全に入浴できるように支援しています。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	拒否の方には無理強いはいませんが、入浴して頂けるような声かけを行っています。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックを行い、顔色や動き等を見守って入浴しています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	しっかり把握できています。	/	/	/	日中の活動量を増やすなどして安易に薬に頼らないようにしている。1階ユニットは重度の利用者が多く早めに就寝してもらう傾向にあるが、2階ユニットではリビングでテレビを見る等、ゆっくりくつろいでもらうようになっている。昼夜逆転など、日中の生活に支障をきたすような場合には主治医に相談して対応している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	できるだけ日中起きてもらうよう声かけやレクを行ったりしています。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	眠剤に頼ってしまっているところもあるが、日中の過ごし方も考えて支援しています。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	その日の状態に合わせて個別に取り組んでいます。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	自分がかけたいと思ったときにかけてもらっています。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙はできていないが、電話は希望に応じて支援しています。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	家族の方と話し合い、電話できるようにしています。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた手紙などは、本人か家族の方に渡すようにしています。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	入所時に家族の方と話し合い協力してもらっています。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	自立した方は自分でお金を管理してもらっているが、重度の方はこちらで預かっています。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	ほとんどできていません。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	理解や働きかけなどは行えていません。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	支援できていません。施設で預かっています。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	入所時に預かり方、使用方法について話し合っています。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	家族の方と話し合い、出納帳作成し、定期的に確認してもらっています。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	本人や家族の方より希望があれば対応するようにしています。	◎	/	○	母体病院の外来受診以外の専門医への受診等、要望があれば職員が付き添い同行する等柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	建物は優しいピンク色で玄関を入ると花を飾っています。玄関は鍵をかけていないので、気軽に出入りできるようにしています。	◎	◎	◎	庭はきれいに手入れされ、玄関には季節の花が飾られており入りやすい雰囲気となっている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	玄関には季節感のある壁画やオブジェを飾っています。リビングは車椅子の方が多いので、広くスペースをとるようにしているが、生活感は大切にしています。		○	○	◎	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	臭いについては、喚起を行ったり、芳香剤を使用しています。また、1日に朝、夕は必ず掃除を行っています。				◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	リビングはとも毎日当たりがよく、入居者の方の目に入る所に季節感が感じられる飾りつけを行っています。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	仲のいい入居者同士で座れるようになっていきます。また、自由に部屋にもどり、ゆっくり過ごせるようにしています。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	使用時には戸を開けて見えないようにしています。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入所時に使い慣れた物を持って来てもらい、居心地よく過ごせるようにしています。		○		クローゼットとエアコン、ベッドの他にも小机、いすなどが備え付けられている。ホームごたつやドレッサー、テレビなどを持ち込んでいる利用者もあり、写真を貼ったりぬいぐるみをベッドに置いたりそれぞれが居心地よく過ごせるように工夫している。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	シンプルな作りになっているので、危険のないようになっているが、利用者の方にとっては同じに見える事もあり、部屋がわからなくなるときがあります。				○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。		部屋の入り口に名前や写真を貼り、トイレはわかりやすく表示しています。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	リビングに新聞や雑誌をいつでも見れるように置いています。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	玄関は鍵をかけていないが、安全のため、チャイムが鳴るようにしています。	◎	×	△	職員は玄関に鍵をかけることの弊害については理解しており、日中は玄関に鍵をかけないことを原則としている。1階ユニットや建物の玄関は施錠していない。2階ユニットの入居者が過去に2回1人で外出したことがあり、家族から強く言われ施錠せざるを得ない事情がある。現在利用者は落ち着いてきており、家族と話し合いをしているが納得を得られない状況である。今後は家族との話し合いを継続するとともに、職員が付き添い安全確保しながら、利用者の要望があれば外出できるよう検討して欲しい。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入所時に家族の方に説明しています。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	時々玄関に行かれる方がいます。その時は見守りを行い、気を付けています。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時に家族の方から詳しく話を聞いたり、フェイスシートなどで確認して把握しています。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	変化や異常があれば、記録に残し、注意しています。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	状態の変化があれば、病院に連絡し、受診や指示を受けています。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	×	母体の病院に受診に行かれています。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人、家族の希望で診察、治療を行っています。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診結果は申し送りノートに記録し、職員の共有を図っています。家族の方には電話で報告しています。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	施設生活での情報を提供しています。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	施設内の病院の利用が多いので、電話での情報交換ができています。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	病院との関係作りはできています。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	ほとんどの利用者の方は、敷地内にある病院に受診し、治療することができています。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間いつでも内職で連絡取り合える体制ができています。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	心配なことがあれば病院に相談、伝達して指示仰ぐことができます。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	いつでもお薬手帳や薬情報を見れるようにしており、理解できています。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬は1人1人きちんと手渡しや介助で飲んでもらい、薬の袋も必ず回収しています(服薬ミスがある場合、飲んだ後の袋を見て、確認できるため)				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	様子観察やチェック表を見て確認しています。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	体調の変化などあれば、病院や家族に連絡しています。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	家族の方が来た時に、必ず状態報告をしています。重度になってきた利用者の方については、家族の方と話し合う場を作り、詳しく話し合うようにしています。	/	/	/	以前、重度化の進んだ利用者を看取った経験をもとに、協力医と連携を取りながら過剰な延命処置をしない方針で、家族の理解や協力を得て実施している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度になられた方の家族の方の気希望を聞き、病院に入院されるのか、施設で看取りされるのか話し合い、共有しています。	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	看取りをする職員の体力、精神的負担は大きいので、少しでも負担を減らせるよう、フォローできるようにしています。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	看取りを希望された家族の方には、施設の看取りについての考え方やできることの限界について話し合い、理解してもらっています。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	家族の方や病院とこまめに連絡を取っています。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	面会に来られた時は、しっかり話を聞くようにしています。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	病院から適切な指示や情報を得ています。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	病院と連携を図っています。病院からの指示を受け、対応しています。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	医療機関から情報を入手し、取り入れています。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	病院、新聞、市役所等から情報収集に努め、対応しています。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関、洗面所等に消毒液を置いています。面会の時や病院受診後などに使用しています。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	あんまり来られない家族の方に対して関係を築くのは難しいが、来られる家族の方からの言い分は聞いています。				今年度は毎年恒例のテレサ祭りが開催できず、ホームだよりも発行できていない。今後はテレサ祭りを再開させて、定期的に家族が事業所に来所できるよう努めて欲しい。家族には毎月郵送する請求書に利用者の日頃の様子を伝える手紙や行事のお知らせを同封して送っている。事業所の運営上の事柄や出来事は運営推進会議で報告しているが、家族の参加がほとんどないため、今後は議事録に説明資料などを添付して送付するなど、工夫して欲しい。家族の来訪時には、管理者や計画作成担当者が必ず声をかけて利用者の様子を報告したり家族からの話を聞いたりしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	来客時にはゆっくり過ぎて頂けるようにお茶やコーヒーを出しています。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	x	年1回だが、テレサ祭りを開催し、家族の方に参加してもらっているが、今年は開催できず、参加してもらえませんでした。	◎		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	利用者の方に変化がある時は、電話で連絡を取るようになっています。また、1か月に1回請求書発送時に手紙を入れたり、面会時には生活状況を伝えています。		○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	家族の方から聞かれたことは必ず報告しています。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	いつもの様子や施設で行っている介護方法など説明しています。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	管理者から家族に伝えていきます。運営推進会議にも議題として伝えていきます。	x		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	x	今年はテレサ祭り行えなかったが、年に1度テレサ祭りを行いました。だが、家族同士の交流は図れていません。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	家族の方が来られた時に、現状を説明し、リスクについて話し合っています。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会時に家族の方の要望や施設からのお願いを話し合うようになっています。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入所時に家族の方と一緒に契約書を見てもらい、説明を行っています。質問にも必ず答え、理解、納得してもらえるようになっています。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約書に退居内容及び契約解除の条項があります。それに基づき支援しています。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時には、料金の内容は重要事項説明書に記載されており、これにより説明しています。料金改定時には、説明書を作り説明し、同意を得ています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	事業所建設時には、地域の承諾が必須条件であります。	/	○	/	自治会には入っているが、職員に時間的余裕がないこともあり、以前のような地域活動への参加はできなくなっている。幼稚園児の施設訪問は年に1回継続して行っており、利用者の笑顔を見ることができている。最近何度か散歩に出ることができるようになってきており、利用者が地域とつながりながら暮らしていけるよう地域活動への取組みを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	自治会には病院が施設全体まとめて入っています。地域の幼稚園の施設訪問はあります。自治会への参加はできていません。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	増えていません。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	立ち寄り、遊びに来られたりしていません。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	外出時、挨拶は行っています。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	できていません。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	重度の方が多く、施設内での生活がほとんどになっており、職員で対応しています。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	公民館は行事の時の機材を借りたりしています。消防署は防災訓練を行っています。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	運営推進会議には地域の方と市役所の方が参加してくれています。家族の方も時々参加してくれています。	/	△	△	運営推進会議は毎回多くの地域の方の参加を得て開催しているが、今年度はテレサ祭りも開催できなかったため利用者や家族の参加が得られていない。今後は家族にも多く参加してもらえるよう話し合われた具体的な内容が理解できるよう議事録を送付する取組みが望まれる。会議では利用者の状態やサービスの実際、評価への取り組み状況について報告しており、会議で出された意見や提案をサービス向上に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	運営推進会議は、主なサービスの取り組み、外部評価を議題に上げて、説明しています。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	行事等の報告は施設側から行います。委員側からは雑談の中でサービスに関する事など質問を受ける時もあります。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	メンバーを増やしたりはないが、メンバーの方が出席しやすい曜日を話し合い決めています。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	できていません。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念を理解して取り組んでいます。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	家族の方には、入所時に理念の説明を行っています。	△	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	代表者ではなく、管理者から研修の呼びかけを行っています。研修の参加は、主に、研修参加希望者に参加してもらっています。				管理者は職員の様子に気を配り、職員の要望等を聞いて事務長を通して代表者に伝えており、待遇の改善も図られているほか、年1回ストレスチェックにも取り組んでおり、職員のストレス軽減に努める等、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	1人1人、気づいたときに口頭で説明したり、資料を提供したりしています。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	職員1人1人に目を向けるようにしています。その都度職員と話し合い、問題解決や前向きに働けるよう指導を行っています。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	グループホームの職員の交換研修があるが行っていません。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	管理者は気配りするようにしています。職員のちょっとした意見でも聞くよう努力しています。相談事は病院の事務長を通して代表者に伝えています。		○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修に参加して理解できています。				職員は虐待や不適切なケアについて理解しており、常に留意している。不適切なケアを発見した場合はその場で注意しているが、利用者へのフォローをするのみになることもあり、対応が統一されていないと考えられるため、全ての職員が不適切なケアについて常に考え、仮におきてしまったとしてもお互いに見過ごすことのないよう情報と対応を共有する対策を講じて欲しい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々の仕事の中で、振り返ったり話し合うようにしています。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	職員間で注意を払っています。虐待が発見された場合、すぐに管理者に報告するようになっています。			△	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	管理者が常に注意を払っています。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	理解しています。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	利用者の方の現場の状況は、アクシデントやヒヤリハット等に記録しています。内容については日々の仕事の中で話し合うようにしています。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	鍵はかかっていません。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	理解はなかなかできないので、研修に行ったりしています。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	パンフレット等で情報を提供しています。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	利用されている利用者の方がいます。社会福祉協議会の方が来られた時にお話して連絡体制をとっています。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルは作成していないが、母体が病院なので、何かあればすぐに連絡し、指示をもらったり、受診したり、対応しています。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	母体が病院の為にできていないが、病院の指示を仰いでいます。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	職員間で申し送りを行い、話し合い、検討しています。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	職員間で情報の伝達を行い、検討し、防止に取り組んでいます。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	マニュアルは作成していないが、苦情があるとすぐに管理者に報告し対応するようにしています。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	対応するつもりでいます。市にも報告していきます。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情に対して、家族の方が納得するように努めています。また、関係が悪化しないように配慮しています。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	利用者の方の意見、苦情は自由に発言できる状態を作っています。			○	利用者からは日常会話の中から意見や要望を把握している。家族からは面会時等の話し合いで意見や要望を聞いている。管理者は日常業務の中で職員から意見や提案を聞いて、事業所運営に反映しており、職員からの信頼も厚く良い関係が築けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	家族の方の意見、苦情は直接、管理者に伝えるか、いない場合は職員に伝えてもらっています。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	特別には行っていないが、入所時に重要事項説明書に目を通してもらい、苦情窓口や市役所などの連絡先を説明しています。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	代表者は時々しか来られないので、管理者から病院の事務長を通して意見等聞いてもらっています。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	管理者は職員の意見を聞く機会を持つようにしています。			◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	×	外部評価が来られる時に、全職員に取り組んでもらっています。				今回の自己評価は職員一人ひとりに書いてもらった上で、管理者が取りまとめて作成しており、日々の活動を振り返り、何を求められているのかを全職員が再認識できたと共に、個々の職員の業務に対する姿勢や考えを知ることができた。評価結果と目標達成計画は運営推進会議で報告しているが、家族の理解が得られていないため、家族に説明を行うとともに、事業所の取り組みのモニターをしてもらうよう今後の取組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価の記入により、職員の1人1人の取り組み意識が明確になり、良いところは伸ばし、悪いところは改善できるようにしたいです。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	取り組んでいます。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議の方には会の時に報告し、モニターをしています。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	職員間ではカンファレンスの時に行っています。運営推進会議では、取り組み内容、成果を報告しています。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	風水害のみマニュアルを作成しています。				事業所での火災避難訓練は実施しており消防署の指導は受けているが、地域や近隣住民、家族等の協力は得られていない。今後は大規模災害等を想定して、マニュアルを作成するとともに、家族や地域住民等との協力体制の構築にも努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	×	できていません。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	火災時の訓練は行っており、消火器の場所の確認、避難経路の確認ができています。備品、食品、物品等の点検は時々行っています。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	施設での訓練は行っているが、地域住民、近隣の事業所等の合同訓練はありません。	×	×	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	地域の防災組織はできみたいだが、詳しくわからないので、できていません。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	施設からの情報発信はできていません。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	できていません。		×	×	事業所は素晴らしい認知症ケアを実践しており、利用者の穏やかな生活を実現させているが、事業所の相談支援等について地域の理解が得られていないため、今後は母体病院等の協力を得る等、地域に事業所を知ってもらうよう広報等にも積極的に努めるとともに、関係機関と連携して地域活動等にも取り組む等、地域におけるケア拠点としての事業所を目指して欲しい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	できていません。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	できていません。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	関係機関とは連携を密に取れるようにしています。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年11月12日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 15名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3871300152
事業所名	グループホーム テレサ
(ユニット名)	テレサ2階
記入者(管理者)	
氏名	津島 夕香
自己評価作成日	令和元 年 10 月 20 日

<p>【事業所理念 笑</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ホームだよりは職員に作成してもらい、何度か家族の方に配布することができました。だが、最近は業務が忙しく、なかなかホームだよりを作成する時間を設けることができず、作れていません。避難訓練は行っているが、まだ、滑り台を使用する訓練はできておらず、備蓄に関しては水の確保もしてみたが、保管場所がなく、多くの水を確保するのは難しかったです。外出に関して、毎日の業務に追われ、ゆつくり外出する時間が取れず、近くに散歩に行く事も難しい現状でした。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設して16年目を迎える事業所は母体となる医療機関に隣接しているため、24時間の医療体制が整っており看取りにも取り組んでいる。管理者は自身の体験から、自分がして欲しいことを利用者にしていきたいと考えており、利用者主体を原則に取り組んでいる。事業所内にはゆったりとした空気が流れ、利用者も職員も穏やかな笑顔で過ごしている。管理者の考えに賛同する職員との信頼関係が築かれ、自分たちが入りたいと思える事業所を目指している。</p>
---------------------	---	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目 内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>◎ 本人の思い希望を聞くようにしています。聞けない場合は家族の方から聞いています。</p> <p>◎ 常に本人らしくを基本にしています。言葉で伝えることが難しい方は、顔つきや体調から読み取るようにしています。</p> <p>◎ 面会時、日々の様子など話し合っています。</p> <p>◎ 気づいたことは記録に書いています。</p> <p>◎ 本人の意思を尊重するように心がけており、職員本位の対応にならないように気をつけています。</p>	○	◎			<p>日々の生活の中で利用者寄り添い、会話の中から利用者の思いや意向を聞き取っている。重度の利用者で、本人から話を聞けない場合は家族から聞き取ったり、表情から推測したりして把握し、利用者の希望に沿った暮らしができるよう努めている。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎ 入所時に家族の方から詳しく話を聞いたり、入所前のケアマネージャーより情報をもらっています。</p> <p>◎ 利用者の方が今出来る事はどこまでか、日常生活から読み取り、日常生活の中で役割として発揮してもらっています。</p> <p>◎ 周りの環境や時刻等で把握できています。</p> <p>◎ どの状況で不安になっているのかを把握するようにしています。</p> <p>◎ 日々の変化は申し送りノートや介護記録により把握しています。</p>			◎		<p>入居に際して利用者や家族から生活歴を聞き取る他、これまで関わってきた介護支援専門員や関係機関からも情報を得て把握するようにしている。</p>
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>◎ 常に本人らしくを基本に考え、現状だけではなく、先のことを考えて何が必要か検討しています。</p> <p>◎ ケアプランに基づき、何が必要か探りながら対応しています。</p> <p>◎ ケアプランに基づき、よりよく暮らしているのを見ています。</p>			△		<p>計画作成担当者を中心にアセスメントを行っている。独自のアセスメントシートには、利用者や家族、関係者から収集した心身の状況が詳しく記載されているが、利用者本位のケアの検討ができていない時もあるため、今後は重度の利用者を含め、何を求めているか利用者目線で検討して欲しい。</p>

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	可能な範囲で出来る事はしています。	/	/	/	常にその人らしさを基本とし、事業所理念である「笑」のある生活を送るための課題やケアのあり方について、家族その他関係者の意見を踏まえて職員間で話し合っ介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	全てを取り入れることは難しいが、家族の方や本人、職員で話し合うようにしています。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	重度、軽度は関係なく、その人らしさを求めています。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	家族の方とは連絡を取り合い、本人の状態について報告し、協力してもらっています。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画作成時、計画の内容を職員に回覧しており、共有しています。	/	/	◎	介護計画の内容はカンファレンスで共有されており、個別ファイルに介護記録と一緒に綴じてあり、職員は介護計画を確認しながら記録できるようになっている。計画に沿ったケアの実践は概ねできているが、評価記録の書式は検討の余地があると考えられる。利用者一人ひとりの暮らしの様子や職員の気づきは個別に細かく記録しているが、アイデアの記録まではできていないため、今後は職員全員で徹底して取り組むことを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	計画に沿ってのケアに努めているが、結果の記録ができていない時があります。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	いつもと違ったこと、会話など介護記録に記入しています。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	気づきの記録はできているが、工夫やアイデア等の記録には欠けています。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月ごとの見直しを行っています。	/	/	◎	介護計画の見直しは6か月に1回実施しており、モニタリング表には目標の達成度や利用者や家族の満足度が記載され、今後の計画に活かされている。新たな要望や変化がない場合も毎月状態確認は行っており、状態に変化が生じた場合にはその都度話し合っ計画を見直しているが、記録に残されていないため、今後は確認や見直し時には記録に残すことが望まれる。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	現状の確認を行い、サービス内容がきちんと実施できているのか確認しています。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	特に心身の状態が悪化し、生活に変化が生じる場合は新たに計画を変更しています。	/	/	△	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	会議は行っていないが、緊急などの時はその都度職員間で話し合っています。	/	/	△	職員体制が整わず、定期会議も開催できない時期が続いたが、今月から定期会議を再開したところである。今後は職員が一丸となって業務改善にも取り組んでいく予定とのこと今後の活動に期待したい。会議の内容は申し送りノートに記入し職員全員が確認して押印している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	会議は行っていないが、職員同士のコミュニケーションがうまくとれており、職員間の話し合いの時は、気づきなど意見できるようになっています。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	会議はできていないが、全員の意見を聞くようにしています。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送りノートに記入して、伝えられるようにしています。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノート、口頭で引継ぎし伝達しています。	/	/	◎	業務連絡や利用者の情報などは申し送りノートに記入して共有できる仕組みを作っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートには入所者の方の詳細情報から業務連絡まで記入して伝わるようにしています。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	希望にそえない時もあるが、残存機能を活かせるようにしています。	/	/	/	生活の様々な場面で自己決定して答えられるように配慮している。利用者の笑顔を引き出すように職員も笑顔で話しかけており、利用者一人ひとりの好みの話題を提供して、話が弾むようにしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	自己決定が必要な時は、常に利用者の方の意向を聞いています。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者の方が伝えたい気持ちを尊重し、聞くようにしています。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	無理強いせず、どうしたいのかを優先しています。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	本人らしく生活できるように心がけています。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	いつもと違ってないか、体調など表情や態度を見るようにしています。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	人生の先輩としてというのを念頭に行動するようにしています。	/	○	◎	職員は利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度について常に意識しており、優しい声かけで対応している。衣服が汚れている場合は、周りに配慮してさりげなく声をかけるよう心がけている。居室への出入りの際には、必ずノックをして声をかけてから入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	共同生活なので、常に介護、声かけに気をつけています。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	◎	入浴時はバスタオルを2枚使用するなど配慮しながら助助を行っています。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る時はノックをすることを習慣付けています。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	理解し、できています。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者の方と職員は家族であるという意識を持っています。	/	/	/	職員は利用者同士の関係を把握しており、仲の良い利用者同士が協力して洗濯物を畳むことができるよう声をかけていた。その場の状況や空気を観察して、トラブルになりそうな場合は席を変えたり、職員がさりげなく間に入って支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士が仲良く助け合える場に助言、声かけをしています。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者同士の関係性を見て、席を決めたり、利用者の方が1人が孤立しないようにしています。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	その場で解決するようにしています。トラブルが他の利用者の方に影響しないようにしています。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	来客の方との関係性を聞き、把握できるようにしています。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	入所時に、家族の方に聞いたり、日常生活の中の会話で聞いています。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	以前はできていたが、今はできていません。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	居室においてお茶やコーヒーを出して、来客者とゆっくり過ごしてもらうようにしています。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	季節を感じてもらえるように努力しています。桜の季節には外出するようにしています。希望にそった外出はできていません。	△	×	△	職員のシフトの問題などで、今まで外出支援の余裕はなかったが、最近何度か散歩に出ることができるようになってきた状況である。今後は重度の利用者を含め、ベランダや庭に出る等、戸外の新鮮な空気を吸い気分転換を図ることができるよう取り組んで欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	できていません。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	季節に応じて散歩など行っているが、ほとんどできていません。	/	/	×	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族の方の協力を得られる利用者の方は協力支援を家族にお願いしています。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	利用者1人1人に違いがあり、職員間の情報の共有や言動で要員を知り、対応しています。	/	/	/	日々の生活の中で活動量を増やしていくことが機能の維持につながると考えており、リビングまでの廊下の移動や靴を履いたり更衣したりする日常生活動作についても、できるだけ見守りながら待って利用者自身でできるように支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	1日2回ラジオ体操をしています。食事前には口腔体操をしています。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動するようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	失敗、できないことをさりげなく援助し、意欲を持たすことを心がけています。	○	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	個々の役割の把握はできているので、行ってもらっています。	/	/	/	口腔体操で歌を歌ったり、好きなことをして楽しんでもらうようにしている。新聞を折ったり、洗濯物を畳む等、できることをしてもらい感謝の言葉を伝えて役割や出番が励みになるよう努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	興味のあること、出来る事への参加を促しています。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中ではありません。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	家族の方が持って来られた服で身だしなみやおしゃれに気を使っています。更衣時などに声かけて聞いています。				利用者は季節に合った清潔な装いをしている。髪は2か月に1回、訪問美容師にカットしてもらっている。食事の際の食べこぼしなどは、さりげなくカバーしていた。重度の利用者も整容には十分留意しており、毎日起床時には手や顔を拭き、髪の毛を櫛でといて着替えもしているが、脱ぎ着がしやすい衣服が多いため、今後は利用者の気に入った服装をコーディネートするよう配慮して欲しい。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	△	本人の子のみで整える支援は難しいが、施設に来てくれる美容師の方のセンスに任せています。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	こだわりのある方には聞いているが、意思表示の難しい人には職員本位で支援しています。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出時には、持って来られた服の中から外出にふさわしい服装ができるようにしています。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	毎食後、口腔ケアを行い、食べこぼし、口の周り等の汚れはきちんと行っています。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	ほとんどの利用者の方は、出張で来ている美容師の方に切ってもらっています。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度の方はゆったりとした服になっているが、きちんとした身だしなみで生活できるようにしています。			△	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	バランスを考えています。口から食べる大切さを理解しています。				朝食のメイン料理のみ業者から届いたものを利用しているが、昼食や夕食は各ユニットで作って提供している。以前のように利用者と一緒に行うことはしてもらいながら食事の準備をしたいとは思っているが、今はまだ職員に余裕がなく、利用者の好みの食材を選ぶこと等ができていないため、今後は好みの食材選び等意向に沿った取組みを検討して欲しい。食材は1週間分まとめて宅配業者に注文し、献立はその日の担当職員が冷蔵庫の中を見て肉や魚などのバランスを考え、季節感のある食材を使って調理している。茶碗や湯飲み、箸等は入居時に使い慣れたものを持って来てもらっているが、古くなったり割れた場合は誕生日に事業所からプレゼントしている。職員も利用者と同じ食卓を囲み一緒に食べながら見守りや介助をしており、できるだけ自分で食べられるよう優しい声かけで決して急がせることなく介助できていた。重度の利用者を含め、リビングで過ごしており、調理の様子や匂いを感じる事ができている。使った食材などをメモして偏りがないようにしているが、献立のバランスや調理方法についての話し合いはできていないため、今後は利用者がバランスよく栄養が摂れるよう、献立に定期的に話し合う機会を設けて欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	職員がしてしまっています。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	できていません。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入所時に家族の方からの申し出で把握できています。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	アレルギー、苦手なものについては気を使っています。季節の野菜を使った料理を作っています。			△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	1人1人に合わせた食べやすい調理と見た目も気をつけて盛り付けています。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入所時に今まで使用していたものを持って来てもらっています。また、古くなった場合はお誕生日プレゼントで新しいお茶碗などにしています。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	介助が必要な方がいるので、一緒に食べる事は難しいが、見守りは行っています。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	キッチンリビングが一緒なので、匂いや調理の音がわかるようになっていきます。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	カロリーの計算はできていないが、食事内容に偏りがないように心がけています。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	本人の好みの物を提供したり、水分摂取の少ない方には汁物を多めに投入したりしています。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	偏りがないよう配慮はしているが、栄養士からの指導は受けていません。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材の賞味期限など確認したり、用具は消毒を行ったり、水分が残らないように拭いたりしています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解しており、毎食後行っています。				毎食後口腔ケアを行っており、入れ歯は毎晩洗浄している。できるだけ自分でできることはしてもらい、できない部分を介助しながら口の中を確認している。虫歯など異常が見られた場合は、敷地内にある歯科外来を受診している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	自立した人は虫歯の有無は確認できていません。義歯は毎晩洗浄しているので把握できています。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	できていません。何かあったら敷地内の歯科を受診しています。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎晩ポリデントにつけています。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	出来る事は自分でしてもらい、難しい部分は介助行っています。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	敷地内に歯科があるので受診しています。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	理解しています。排泄が自分でできるか自信をなくす大きな要素だと思っています。				基本的には日中はなるベクトイレで排泄できるようにしており、夜間のみおむつを使用して時間で交換している利用者もいる。利用者それぞれの排泄パターンや状況、排泄量などを考慮しておむつやパッドが適切に使用できるように支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	理解しています。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表があるので、把握できています。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	本人が必要と思われる状態に見合った紙パンツ、パッドを使用しています。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	食事や水分量をチェックし取り組んでいるが、改善にはなっていません。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表を見ながら声かけや誘導を行っています。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	自分で使用できる人は本人の意思を優先しているが、ほとんどの人は自分で使用できないので、家族の了解を求めています。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者の方の状態や時間帯で紙パンツ、開閉式パンツと使い分けています。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	できるだけ自然に排便ができるように心がけているが、どうしても薬に頼らなければいけないところがあります。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	×	業務の都合上、職員の都合です。	◎		○	午前中に入浴してもらっているが、時間帯や湯温等、利用者の要望にも柔軟に対応している。入浴を嫌がる利用者にも声のかけ方に工夫する等、ゆっくりくつろいで入浴できるよう努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	ゆったりと時間をとり、入浴してもらっています。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自立の精神でできることは支援しないようにしています。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	本人の意思を尊重しつつ、できるだけ入浴できるような声かけを行っています。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	その日の体調や夜間の様子等確認し、入浴前にはバイタルチェックをして、入浴の可否を決めています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	把握できています。				日中の活動量を増やすなどして安易に薬に頼らないようにしている。1階ユニットは重度の利用者が多く早めに就寝してもらう傾向にあるが、2階ユニットではリビングでテレビを見る等、ゆっくりくつろいでもらうようになっている。昼夜逆転など、日中の生活に支障をきたすような場合には主治医に相談して対応している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	職員全体で日中なるべく起きておくように努めたり、連携して対応しています。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中の過ごし方に気を付けたりしても夜間不眠の方は、医師に相談し医師の指示を受け、薬を処方してもらっています。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	いつでも部屋に帰り、横になれるような環境を作っています。車椅子の方は、昼食後2時間程度部屋にて横になってもらっています。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を持っている方は自由に電話してもらっています。また、他の利用者の方は曜日で電話したり、希望があるとかけています。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙はないが、電話は支援行っています。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	家族の方と話し合い、電話できるようにしています。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた手紙などは、本人か家族の方に渡すようにしています。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	入所時に家族の方と話し合い、協力してもらっています。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	理解しているが、持っている人はいません。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	行っていません。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	できていません。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	利用者の方が持っている、利用者の方同士で貸し借りしようとしていたり、盗られたなどいろいろ問題があり、家族の方と相談し、所持しないようにしています。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	入所時に預かり方、使用方法について話し合っています。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	家族の方と話し合い、出納帳を作成し、定期的に確認してもらっています。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	本人や家族の方より希望があれば対応するようにしています。	◎		○	母体病院の外来受診以外の専門医への受診等、要望があれば職員が付き添い同行する等柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	建物は優しいピンク色で玄関を入ると花を飾っています。	◎	◎	◎	庭はきれいに手入れされ、玄関には季節の花が飾られており入りやすい雰囲気となっている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	四季折々の花、季節に応じた装飾にしています。	○	○	◎	リビングは車いすでも動きやすい広々とした造りになっていて、食卓の他にもみんなで座れるソファが配置されている。ベランダに面した大きな窓からは遠くの山並みや空を眺めることができ開放感がある。担当の職員が朝夕掃除しており、換気にも気を使い清潔に保たれている。壁には利用者と一緒に作った季節を感じさせる絵画や園児との交流の写真を飾り、「令和」の色紙もかけていて、元号が平成から令和に変わったことを話題にできるようにしていた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	臭いについては、換気を行ったり、芳香剤を使用しています。また、1日2回必ず掃除を行っています。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	リビングはとても日当たりがいいです。また、利用者の方の目に入る所に季節が感じられる飾りつけを行っています。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	仲のいい同士で座れるようになっていきます。また、自由に部屋に戻り、ゆっくり過ごせるようにしています。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	使用時には戸を開けて見えないようにしています。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入所時に使い慣れた物を持って来てもらい、居心地よく過ごせるようにしています。	○		○	クローゼットとエアコン、ベッドの他にも小机、いすなどが備え付けられている。ホームごたつやドレッサー、テレビなどを持ち込んでいる利用者もあり、写真を貼ったりぬいぐるみをベッドに置いたりそれぞれが居心地よく過ごせるように工夫している。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	シンプルな作りになっており、危険のないようになっているが、利用者の方にとっては同じに見える事もあり、部屋がわからなくなる時もあります。			○	建物はバリアフリーになっており、車いすの利用者も安全に移動できる。居室の入口には表札の他に写真を貼ったプレートをかけて間違わないようにしており、トイレや浴室もはっきりとわかりやすく表示している。歯磨き道具などにも名前を入れて自分で使えるようにする等、自立した生活が送れるよう配慮している。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	不安になるものは取り除いたり、わかりやすい配置にしています。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	玄関は鍵をかけており、できていません。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことの影響、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	×	理解しているが、持っている人はいません。家族の方の理解も得られていないので、施錠しています。	◎	×	△	職員は玄関に鍵をかけることの弊害については理解しており、日中は玄関に鍵をかけないことを原則としている。1階ユニットや建物の玄関は施錠していない。2階ユニットの入居者が過去に2回1人で外出したことがあり、家族から強く言われ施錠せざるを得ない事情がある。現在利用者は落ち着いてきており、家族と話し合いをしているが納得を得られない状況である。今後は家族との話し合いを継続するとともに、職員が付き添い安全確保しながら、利用者の要望があれば外出できるよう検討して欲しい。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	理解が得られていないので、できていません。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	できていません。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	把握できています。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日々変わる身体状態の変化には特に注意しています。変化やサインについて記録し、引継ぎ口頭で伝えており共有できています。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	状態に変化があれば、病院に連絡し、受診や指示を受けています。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	母体の病院に受診に行かれている方がほとんどだが、家族の方が希望している病院に受診している方もいます。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人、家族の希望で診察、治療を行っています。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診結果は申し送りノートに記録し、職員の共有を図っています。家族の方には電話で報告しています。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	施設生活での情報を提供しています。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	施設内の病院の利用の方が多いので、電話で情報交換ができています。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	病院との関係作りはできています。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	ほとんどの利用者の方は、敷地内にある病院に受診し、治療することができています。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間いつでも内線で連絡取り合える体制ができています。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	心配なことがあれば病院に相談、伝達して指示仰ぐことができます。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	いつでもお薬手帳や薬情報を見れるようにしており、理解できています。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬は1人1人きちんと手渡しや介助で飲んでもらい、薬の袋も必ず回収しています。(服薬ミスがある場合、飲んだ後の袋を見て確認できるため)				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	様子観察やチェック表を見て確認しています。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	体調の変化などあれば病院や家族の方に連絡しています。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	家族の方が来た時に、必ず状態報告をしています。重度になってきた利用者の方については、家族の方と話し合う場を作り、詳しく話し合うようにしています。	/	/	/	以前、重度化の進んだ利用者を看取った経験をもとに、協力医と連携を取りながら過剰な延命処置をしない方針で、家族の理解や協力を得て実施している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度になられた家族の方の希望を聞き、病院に入院されるのか、施設での看取りをされるのか話し合い、共有しています。	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	看取りをする職員の体力、精神的負担は大きいので、少しでも負担を減らせるようにフォローできるようにしています。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	看取りを希望された家族の方には、施設での看取りについての考え方や出来る事の限界について話し合い、理解してもらっています。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	家族の方や病院とこまめに連絡を取っています。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	面会に来られた時は、しっかり話を聞いています。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	病院から適切な指示や情報を得ています。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	病院と連携を図っています。病院からの指示を受け、対応しています。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	医療機関から情報を入手し、取り入れています。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	病院、新聞、市役所等から情報収集に努め、対応しています。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関、洗面所等に消毒液を置いています。面会の時や病院受診後などに使用しています。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	あんまり来られない家族の方に対しては関係を築くのは難しいが、来られる家族の方からの言いは聞いています。				今年度は毎年恒例のテレサ祭りが開催できず、ホームだよりも発行できていない。今後はテレサ祭りを再開させて、定期的に家族が事業所に来所できるよう努めて欲しい。家族には毎月郵送する請求書に利用者の日頃の様子を伝える手紙や行事のお知らせを同封して送っている。事業所の運営上の事柄や出来事は運営推進会議で報告しているが、家族の参加がほとんどないため、今後は議事録に説明資料などを添付して送付するなど、工夫して欲しい。家族の来訪時には、管理者や計画作成担当者が必ず声をかけて利用者の様子を報告したり家族からの話を聞いたりしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	来客時にはゆっくり過ぎて頂けるようにお茶やコーヒーを出しています。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	年に1回だが、テレサ祭りを開催し、家族の方にも参加してもらっているが、今年は開催できず、参加してもらえませんでした。	◎		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	利用者の方に変化がある時は、電話で連絡を取るようになっています。また、1か月に1回、請求書発送時に手紙を入れたり、面会時には生活状況を伝えています。		○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	家族の方から聞かれたことは必ず報告しています。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	いつもの様子や施設で行っている介護方法など説明しています。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	管理者から家族に伝えていきます。運営推進会議にも議題として伝えていきます。		×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	今年はテレサ祭り行えなかったが、年に1度テレサ祭りを行っていました。だが、家族同士の交流は図れていません。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	家族の方が来られた時に、現状を説明し、リスクについて話し合っています。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会時に家族の方からの要望や施設からのお願いを話し合うようになっています。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入所時に家族の方と一緒に契約書をみてもらい、説明を行っています。質問にも必ず答え、理解、納得してもらえるようになっています。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約書に退居内容及び契約解除の条項があります。それに基づき支援しています。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時には、料金の内容は重要事項説明書に記載されており、これにより説明しています。料金改定時には、説明書を作り、説明し、同意を得ています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	事業所開設時には、地域の承諾が必須条件であります。	/	○	/	自治会には入っているが、職員に時間的余裕がないこともあり、以前のような地域活動への参加はできなくなっている。幼稚園児の施設訪問は年に1回継続して行っており、利用者の笑顔を見ることができている。最近何度か散歩に出ることができるようになってきており、利用者が地域とつながりながら暮らしていけるよう地域活動への取組みを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	自治会には病院が施設全体でまとめて入っています。地域の幼稚園の施設訪問はあります。自治会への参加はできていません。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	増えていません。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	立ち寄り、遊びに来られたりしていません。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	外出時、挨拶は行っています。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	できていません。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	施設内での生活がほとんどになっており、職員で対応しています。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	公民館は行事の時の機材を借りたりしています。消防署は防災訓練を行っています。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	運営推進会議には地域の方と市役所の方が参加してくれています。家族の方も時々参加してくれています。	/	△	△	運営推進会議は毎回多くの地域の方の参加を得て開催しているが、今年度はテレサ祭りも開催できなかったため利用者や家族の参加が得られていない。今後は家族にも多く参加してもらえるよう話し合われた具体的な内容が理解できるよう議事録を送付する取組みが望まれる。会議では利用者の状態やサービスの実際、評価への取り組み状況について報告しており、会議で出された意見や提案をサービス向上に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	運営推進会議は、主なサービスの取り組み、外部評価を議題に上げて、説明しています。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	行事等の報告は施設側から行います。委員側からは雑談の中でサービスに関する事など質問を受ける時もあります。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	メンバーを増やしたりはないが、メンバーの方が出席しやすい曜日を話し合いで決めています。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	できていません。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念を理解して取り組んでいます。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	家族の方には、入所時に理念の説明を行っています。	△	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	代表者ではなく、管理者から研修の呼びかけを行っています。研修の参加は、主に、研修参加希望者に参加してもらっています。				管理者は職員の様子に気を配り、職員の要望等を聞いて事務長を通して代表者に伝えており、待遇の改善も図られているほか、年1回ストレスチェックにも取り組んでおり、職員のストレス軽減に努める等、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	1人1人、気づいたときに口頭で説明したり、資料を提供したりしています。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	×	職員1人1人に目を向けるようにしています。その都度職員と話し合い、問題解決や前向きに働けるよう指導を行っています。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	グループホームの職員の交換研修があるが、行っていません。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	管理者は気配りするようにしています。職員のちょっとした意見でも聞くように努力しています。相談事は病院の事務長を通じて代表者に伝えています。		○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修に参加して理解できています。				職員は虐待や不適切なケアについて理解しており、常に留意している。不適切なケアを発見した場合はその場で注意しているが、利用者へのフォローをするのみになることもあり、対応が統一されていないと考えられるため、全ての職員が不適切なケアについて常に考え、仮におきてしまったとしてもお互いに見過ごすことのないよう情報と対応を共有する対策を講じて欲しい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々の仕事の中で、振り返ったり話し合うようにしています。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	職員間で注意を払っています。虐待が発見された場合、すぐに管理者に報告するようになっています。			△	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	管理者が常に注意を払っています。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	理解しています。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	利用者の方の現場の状況は、アクシデントやヒヤリハット等に記録しています。内容については日々の仕事の中で話し合うようにしています。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	×	家族の方の要望で鍵をかけています。話し合いは行ってきたが、理解してもらえてません。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	理解はなかなかできないので、研修に行ったりしています。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	パンフレット等で情報を提供しています。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	利用している利用者の方がいます。社会福祉協議会の方が来られた時にお話して、連絡体制をとっています。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルは作成していないが、母体が病院なので、何かあればすぐに連絡し、指示をもらったり、受診したり、対応しています。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	母体が病院の為、できていないが、病院の指示を仰いでいます。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	職員間で申し送りを行い、話し合い、検討しています。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	職員間で情報の伝達を行い、検討し、防止に取り組んでいます。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	マニュアルは作成していないが、苦情があるとすぐに管理者に報告し対応するようにしています。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	対応するつもりでいます。市にも報告していきます。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情に対して、家族の方が納得するように努めています。また、関係が悪化しないように配慮しています。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	利用者の方の意見、苦情は自由に発言できる状態を作っています。			○	利用者からは日常会話の中から意見や要望を把握している。家族からは面会時等の話し合いで意見や要望を聞いている。管理者は日常業務の中で職員から意見や提案を聞いて、事業所運営に反映しており、職員からの信頼も厚く良い関係が築けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	家族の方の意見、苦情は、直接管理者に伝えるか、いない場合は職員に伝えてもらっています。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	特別には行っていないが、入所時に重要事項説明書に目を通してもらい、苦情窓口や市役所などの連絡先を説明しています。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	代表者は時々しか来られないので、管理者から病院の事務長を通じて意見等聞いてもらっています。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	管理者は職員の意見を聞く機会を持つようにしています。			◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	×	外部評価が来られる時に、全職員に取り組んでもらっています。				今回の自己評価は職員一人ひとりに書いてもらった上で、管理者が取りまとめて作成しており、日々の活動を振り返り、何を求められているのかを全職員が再認識できたと共に、個々の職員の業務に対する姿勢や考えを知ることができた。評価結果と目標達成計画は運営推進会議で報告しているが、家族の理解が得られていないため、家族に説明を行うとともに、事業所の取組みのモニターをしてもらうよう今後の取組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価の記入により、職員の1人1人の取り組み意識が明確になり、良いところは伸ばし、悪いところは改善できるようにしたいです。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	取り組んでいます。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議の方には会の時に報告し、モニターをしています。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取組みの成果を確認している。	◎	職員間ではカンファレンスで行っています。運営推進会議では、取り組み内容、成果を報告しています。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	風水害のみマニュアルを作成しています。				事業所での火災避難訓練は実施しており消防署の指導は受けているが、地域や近隣住民、家族等の協力は得られていない。今後は大規模災害等を想定して、マニュアルを作成するとともに、家族や地域住民等との協力体制の構築にも努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	×	できていません。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	火災時の訓練は行っており、消火器の場所の確認、避難経路の確認はできています。備品、食品、物品等の点検は時々行っています。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	施設での訓練は行っているが、地域住民、近隣の事業所等の合同訓練はありません。	×	×	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	地域の防災組織はできたみたいだが、詳しくわからないので、できていません。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	施設からの情報発信はできていません。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	できていません。		×	×	事業所は素晴らしい認知症ケアを実践しており、利用者の穏やかな生活を実現させているが、事業所の相談支援等について地域の理解が得られていないため、今後は母体病院等の協力を得る等、地域に事業所を知ってもらうよう広報等にも積極的に努めるとともに、関係機関と連携して地域活動等にも取り組む等、地域におけるケア拠点としての事業所を目指して欲しい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	できていません。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	できていません。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	関係機関とは連携を密に取れるようにしています。			△	